

御坊市新庁舎建設事業
基本設計業者選定公募型プロポーザル
審査結果報告書

令和元年 7 月

御坊市新庁舎建設事業基本設計業者選定委員会

1. 本プロポーザルの実施目的

御坊市新庁舎建設基本計画に基づく新庁舎を具現化するための基本設計業務を発注するにあたり、高い能力を持ち、かつ本事業に対する深い理解度、本市の立場に立った取組方針や提案力など、本事業に最適な人と組織を選定することを目的として公募型プロポーザル方式を採用しました。

2. 審査体制

選定にあたっては、専門的見地からの考察に加え、公平性・透明性を確保するため、専門分野の委員も参加する「御坊市新庁舎建設事業基本設計業者選定委員会」（以下「選定委員会」という。）を設置しました。

3. 選定委員会委員

	氏名	役職等
委員長	高砂 正弘	和歌山大学システム工学部システム工学科教授 (建築設計・意匠等)
副委員長	龍神 康宏	御坊市副市長
委員	陶器 浩一	滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科教授 (建築設計・構造等)
委員	小池 信昭	和歌山工業高等専門学校環境都市工学科教授 (津波・海岸工学等)
委員	大川 泰輔	御坊市総務部長
委員	小瀬 武伯	御坊市産業建設部長
委員	大崎 恵司	御坊市議会事務局長

4. 審査経過

選定委員会	開催日	内容・特記事項
第1回	平成31年 4月11日(木)	基本設計業者選定方針の決定
第2回	平成31年 4月25日(木)	公募型プロポーザル実施要領等公募資料の決定
第3回	令和元年 6月4日(火)	参加表明者数及び二次審査への通過者数の報告 二次審査の評価方法について協議
第4回	令和元年 7月5日(金)	プレゼンテーション及びヒアリングの実施 委託候補者等の決定

5. プロポーザル参加者

3者

6. 審査内容

(1) 一次審査

本選定委員会において事前に定めた評価基準に基づき、技術職員数や有資格者数、業務実績などを審査し、参加表明のあった3者全てが二次審査の対象者に選定されました。

(2) 二次審査

プレゼンテーション及びヒアリング審査を踏まえ、本選定委員会において事前に定めた評価基準に基づき、業務実施方針における取組体制、業務の理解度など、また、技術提案である「安全・安心の災害対策拠点としての庁舎」「人にやさしく市民に親しまれる御坊らしい庁舎」「環境にやさしくライフサイクルコスト低減が図られた庁舎」の3つのテーマにおける的確性、実現性、創造性を評価基準として審査を行いました。また、見積価格審査として提案見積価格書により評価を行いました。

7. 審査結果

(1) 委託候補者

株式会社 山下設計 関西支社

(2) 一次審査・二次審査・見積価格審査の合計点

選定結果	得点
1位	119.1
2位	68.5
3位	61.4

8. 審査講評

委託候補者となった「株式会社 山下設計 関西支社」は基本計画をよく理解し、本市の地域特性や課題を踏まえ、各テーマに対して完成度の高い提案内容でした。具体的には、テーマ1では、最大の課題である南海トラフ巨大地震における地震・津波対策について、中間層免震構造の提案や浸水レベルごとの具体的な対策の提案がなされおり、また、近年増加傾向にある大型台風に伴う豪雨・暴風被害などの対策についても具体的な提案がなされていました。テーマ2では、古くから発展してきた街の魅力を活かし、国道42号線と寺内町を結ぶ東西に貫通する動線を庁舎内に設け、市の情報コーナー等を整備することで街の活性化を育む庁舎づくりの提案、吹抜け空間の計画、吹抜け空間に面した市民ラ

ウンジによる回遊性のある空間の提案等市民に親しまれる庁舎としての提案がなされていきました。また、地域産材を活用した中央部分を木造による架構とする提案については、市民が親しみを持てる空間として評価できる一方で、コスト面・技術面から更なる検討が必要であるとの意見が出されました。テーマ3では、吹抜け空間による自然換気、東西面の日射量を抑制する方式や庇による負荷の軽減など、自然エネルギーの利用や環境負荷低減につながる施設設計の工夫がなされた提案でした。

その他の参加者からも、それぞれの豊富な経験と技術に基づいた多様な提案をいただきました。

結びに、本プロポーザルに参加され、貴重な時間を費やし、真摯に努力いただきました各提案者に対し、心から感謝申し上げます。

また、委託候補者となった「株式会社 山下設計 関西支社」におかれましては、市民や市の意見を十分に反映させながら、持てる技術力を最大限に発揮され、新庁舎の設計業務にご尽力されることを切に期待します。

御坊市新庁舎建設事業基本設計業者選定委員会